

2020年

10月23日(金) ~ 10月25日(日)

東京・荻窪「オメガ東京」

演出 ナガノユキノ

：アクティブ・リーディング：

父と暮せば

井上ひさし作

オーガニックシアター・リアクション研究所公演

音響家・山田健之さん追悼

拝啓 井上ひさし様

尊敬する貴方様が旅立たれたのは2010年4月9日。その後いかがお過ごででしょうか。
震災原発、コロナ禍、貴方が御存命でしたら、どのような発信をなさるのでしょうか。

丸木美術館の原爆の絵には、次のような言葉が添えられていたかと記憶しております。
「原爆死者〇〇万人というが、
そのひとりひとりに掛け替えの無い人生が有った事を想うと、
この絵を描くのに、膨大な時間がかった」。

井上様。

私、

とりわけ今年は大切な方を亡くされたご家族の悲しみに接する機会がとても多いのです。
まさか。まさか。この言葉を、今年何度呟いたことか。

本作を通じて貴方様は「今」を全うしなさいと呼び掛けている様に感じます。

コロナ禍、演劇人としては、今は活動を自粛するほうが無難で楽です。
ところが幾つかの要因が奇しくも重なって、この企画が始まったのです。

案の定、暗中模索。

ところがです。何処からか「声」が聞こえるのですよ。『じゃあ、諦めるのかい?』

芝居創りの混沌の中で、ともすれば弱気になりがちな私に、「声」は囁き続けるのです。

『好きな事で七転八倒出来るなんて、幸せな人生じゃないか。』

『その幸せを味わう事が叶わず逝った、
一人ひとりの悲しい「過去」に想いを寄せる事も、俳優の仕事だよ。』

『大きな視点で、私達人間がかつておかした過去の過ちを誠実に悔いて、
未来の子供たちの平和の為に、お前さんの今を全うしなさい。』

井上様、貴方は昇天した父と現世で苦悶する娘との対話を通して、
今、コロナ禍で苦しむ全ての人に、
『生きる事を諦めないで。自他を愛して。天命を全うして。』
と、呼びかけていらっしゃる。私にはそう思えてなりません。

終わりに井上様、そちらに我らが音響家・山田健之さんは到着されましたか。
来てない?やはりそうでしたか。

いや、山田さんは今回公演が気が気じゃなくて、しばし我らを見守る隊長を務める旨、
そちらに連絡が入っている筈です。

井上様も宜しければ、我らの「父と暮せば」御高覧頂けますと幸いです。

今回公演竹造役より。井上ひさし様まいる

企画・制作 福吉竹造役 蓼池龍三

〔演出〕 ナガノユキノ

本日はようこそおいでくださいました。

原爆で命を失った父親が
一目ぼれをした娘の恋愛を成就させようと、
お化けになって応援にやってくる…

はじめてこの作品を演出した時はまだ息子が小さくて
実感できなかったことがたくさんありました。

もし未婚の子をひとり残して死んでしまったら
私もお化けになって出てきて応援したいかも知れないと
やっと実感する年になりました。

コロナ禍によって、高齢者の中に入る私は
死が身近になって来たからかもしれません。

それにしても年を取るのって失うことばかりではありませんね。
毎日が発見です。

【Staff】

●舞台監督 辰巳次郎

●照明 白土真平

●照明操作 小泉和子

●音響 山田健之

●音響操作 實裕あかね

●音響協力 山田陽大

●宣伝美術・HP作成・制作 辻村夏穂

●票券管理・制作 奈良岡史也

●劇場受付 木寺美由紀

●協力 松尾淳一／村田寿恵／(株)ぷろだくしょんバオバブ

●製作

辰巳次郎
ナガノユキノ

蓮池龍三

●製作協力 古谷高子

●企画協力 福追由紀

●企画・制作 蓮池龍三

「福吉美津江」役 辻村夏穂

先日、初めて広島に行きました。
各所に植わっている倒れそうな老木…
「被爆樹木」と表示がありました。

戦後75年が経ち人も木も年月を重ねる中、
作品を通して伝えていけるもの・残していく物が
少しだもあれば…

〈朗読〉 青沼かづま

この作品を山田さんの音響と共に10年以上、
上演してきました。
俳優として彼の音と心を一つにして共演してきた、
と言った方が良いでしょう。
今回は、裏で支えさせて頂きます。
いつも山田さんがやって来られたように。
山田さん、見ててね！

【次回公演情報】

アフターコロナを生きぬく緊急コンサート

「ちがいを超えてつながりあおう」

ミュージカル「マイス」より

2020年10月27日(火)

19時30分開演 @吉祥寺SHUFFLE

演出:ナガノユキノ

出演:青沼かづま/辻村夏穂/他